



勢いよく冷水を浴びせられる神様「ほとほと」役の人たち

まちの話題

あなたの声や地域、職場での話題を
お寄せください。
役場企画課宛まで（電話72-0332）

冷水浴びせて厄払い

伝統奇習行事「ほとほと」

菅福地区に古くから伝わる厄払いの伝統行事「ほとほと」が2月12日、同地区内で行われました。

今年は4軒の家を訪問。外も暗くなつた午後6時半過ぎ、みのとかをを身につけた神様役の若者5人が、神様が扉をたたき音「ホトホト」と大きな声で言いながら、馬やしめ縄などのわら細工を入れたかごを該当の家に届けました。

縁側に用意された酒や祝儀をほとほと役が持ち帰るうとすると、家人が勢いよく冷水を浴びせました。

ほとほとは、神様が厄年を迎えた人の家に厄よけの品を持って訪問。お礼の品々を受け取って帰るときに厄がつかないように水をかけ、1年の幸福を願う行事。同地区では次代に伝統行事を伝えていくことと3年前、25年ぶりに復活させました。



末宗さん（左）の読み聞かせに絵本の世界に入り込む参加者



各テーブルで料理を説明する恩田さん（右）

自然の恵みを味わう

山菜を楽しむ会

町内で採れた山菜など自然の食材を味わってもらおうと2月13日、山菜を楽しむ会（萌会、恩田記子代表）が町公民館で開かれました。町内外から32人が参加。料理は、前菜、煮物、酢の物、お造りなど18品の料理が膳に盛られた山菜フルコース。食材は同会員らが自分たちで1年かけて集めた物が使われ、わらび、こごみ、ふぎ、うど、みょうがなどの山菜、イノシシの肉や鯉こくも出され、参加者たちは、ふだん食べられない料理に感動しながら味わっていました。

お話しと歌の世界

絵本とわらべうた

楽しいお話の世界とリズムミカルなわらべ歌。「絵本とわらべうた」が2月19日、開発センターで開かれました。

講師は、語りを中心に活動する末宗リツ子さん（米子市）。子どもたちは手遊びやわらべ歌をいっしょに楽しみ、大人たちは、子どもたちにとどのような本を選んだらいいのか、など絵本の読み聞かせについて学びました。

雪降るまちに鈴と経が響く

町仏教会が「寒中たく鉢」

チリン、チリン。鈴の音と読経が地域に響きわたる。冬の風物詩ともなっている町仏教会（八谷宣道会長10か寺）の寒中たく鉢が2月11日に黒坂地区で行われました。

朝から雪がちらつく中、網代がさと黒の衣を身にまとった僧りよたちは、手にした鈴を鳴らし、般若心経を唱えながら家々を回りました。

八谷会長は、昨年は、水害や新潟県中越地震、スマトラ沖地震など自然災害による被害が多かった年でした。地域の平穏を



地域の安全を祈り一心不乱に経を唱える僧りよたち

願い、1年が明るい年であってほしいです」と話し、一心不乱に経を唱えていました。

たく鉢は、町仏教会が修業と社会福祉活動のひとつとして、昭和11年から毎年行われています。黒坂・根雨地区とも風情ある僧りよたちの姿を写そうと、県内外から多くのカメラマンたちが集まり、その姿にシャッターを切っていました。

寄せられた浄財は、町内の保育所や小中学校、町内の社会福祉施設、国内外の被災地などに寄付することになっています。



心を込めてついたもちを箱に詰めるJA女性会のメンバー



鳥取市から多くの若者が参加。にぎやかにめんを打つ

手作りは最高の味 手打ちうどんづくり

自分で作ることの喜びを感じてもらおうと、里山もの作り大学（塾長小谷博徳さん「上菅」）の「手打ちうどんづくり」が2月27日、町公民館で開かれました。

町内外から参加した10人は、うどん粉をこねることから始め、生地を寝かせ、めん棒で伸ばし、包丁や製麺機を使って手作りうどんを完成させました。水にさらした打ち立てのめんはこしがあり、店では味わえない手作りの味に、参加者は満足していました。

もちを食べて元気に

JA女性部がもちを新潟へ
新潟県中越地震で被害に遭った子どもたちに元気をだすため、とうとう、JA鳥取西部女性会日野町支部が3月2日、農産物加工所「大夢多夢」でついた「もち」を山古志村の小学校（新潟県）に贈りました。もちは、ひな祭りの時期にちなんで赤と白、緑（ヨモギ）の3色の丸もち。同会員らが、自分たちができることで支援したいと、心を込めてつき、1袋15個入りの66袋を箱に詰めて贈りました。